



支援員養成講座5

発達障害と合理的配慮

学年に応じた配慮②



1

注意欠陥多動性障害(ADHD)の特徴

人の話を最後まで聞くことが難しい。

字形がくずれている。

忘れ物が多い。

目立った離席が多い。

身の回りの整理整頓が苦手。

興味のある活動には積極的に参加するが、ほとんど参加しない活動もある。

注意の持続が難しく、授業態度に顕著な差がある



3

中学年における困難の特徴

集中できる時間が短く、気が散りやすい

周囲から注意や叱責を受ける

離席が目立たなくなるものの、衝動的な発言が多い

授業が中断することもあり、周囲からの誤解を受けやすい

短絡的な思考に陥りやすい

理解度が周囲に比べて低くなる

授業のユニバーサルデザイン研究会(監修) 東洋館出版 授業のユニバーサルデザインを目指す 全時間指導ガイド



5

主な発達障害



2

低学年における困難の特徴

先生や友だちの話を最後まで聞いていない

指示が通りにくく、聞いて学ぶ活動が制限される

思いつくままに発言したり、離席が目立つ

授業が中断することもあり、周囲からの誤解を受けやすい

整理整頓が苦手である

授業開始前に学習の準備が整わない

授業のユニバーサルデザイン研究会(監修) 東洋館出版 授業のユニバーサルデザインを目指す 全時間指導ガイド



4

高学年における困難の特徴

失敗経験が多くなり、自信喪失傾向にある

学習性無力感、自己肯定感の低下

学習上のケアレスミスが目立つ

注意の持続が難しいため、細かい間違いが増える

攻撃的な反応が増える

自己防衛であるものの、周囲からの誤解を受けやすい

授業のユニバーサルデザイン研究会(監修) 東洋館出版 授業のユニバーサルデザインを目指す 全時間指導ガイド



6

学年に応じた配慮

ひとつの課題時間を短く設定し、学習量の調整をする

掲示物・座席などの環境設定を行う

できていること、自分に合ったやり方など
子ども自身に伝えて、継続していくように支援する

大人とゆっくり話ができる時間を設定し、
不安感の把握と解消に継続的に取り組む

国立特別支援教育総合研究所「合理的配慮」実践事例データベース

